

結 果 報 告

大会名	平成26年度第66回全日本総合ハンドボール選手権大会				
競技日	12月28日 (日)	試合番号	5-2	回戦	決勝
種別	男子・女子	会場	枇杷島SC ・ 愛知県体育館		
Aチーム			Bチーム		
大同特殊鋼			大崎電気		
得点合計	小計		小計	得点合計	
21	7	前半	13	36	
	14	後半	23		
		第1延長 (前半)			
		第1延長 (後半)			
		第2延長 (前半)			
		第2延長 (後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名 森 真介

決勝戦は、昨日の準決勝で劇的勝利を収め勢いに乗る地元・大同特殊鋼と、同じく準決勝で車体との激戦を制し連覇を狙う王者・大崎電気と前回大会決勝と同一カードとなった。大崎電気のスローオフで試合開始。大同特殊鋼は4番藤江のサイドシュートで先制するも、大崎電気6番豊田のミドルシュートですぐに取り返し、両者堅い守りで引き締まった立ち上がりとなる。試合が動いたのは14分、大同特殊鋼の退場の際に大崎電気24番信太、3番小澤の得点で一步抜け出す。更に16分、大崎電気7番宮崎投入で突き放しにかかる。大同特殊鋼も若き司令塔4番藤江が果敢に切り込むも、大崎電気のDFをなかなか崩すことができない。3点差がついたところでたまたまタイムアウトをとるも、リズムを変えることができず13-7と大崎電気が6点リードで前半終了。

後半巻き返したい大同特殊鋼だが、スカイプレーを大崎電気6番豊田に読まれ、逆に勢いに乗ったのは大崎電気。18番石川、25番元木、9番森がコートを駆け回り、得点を量産し、点差を突き放す。流れを変えたい大同特殊鋼も8番久保を投入し、4番藤江とのカットインプレーで応戦するも、要所のミドル・ロングシュートは相手GK12番木村に阻まれ、攻撃が機能せず、大崎電気の速攻を浴びてしまう。末松監督は選手を鼓舞し、地元開催での意地を見せるが、最後まで攻撃の勢いを緩めず、若手とベテランがしっかりかみ合い、安定した試合運びをした大崎電気が36-21と点差をつけ、2年連続の日本一に輝いた。